

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

■短期大学士(音楽)Associate's Degree of Music:音楽科 デジタルミュージック、声楽、声とことばの創造表現、合唱指導者、ピアノ、電子オルガン、弦・管・打楽器、ウインドシンフォニー、ジャズ、ポップ&ロックミュージック、音楽教養、音楽と社会 各コース

本課程における学修をととして、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下のとおり設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成します。

<教育課程の編成・内容>

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の修得をめざし、教育課程を「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の3つの科目区分により体系的な教育課程を編成します。

・「教養科目」では、音楽と芸術文化を支える幅広い知識を身に付けるとともに、教養教育を通じてコミュニケーション能力や実践力を備えた豊かな人間性を培うために、専攻分野の学修において学問的な基礎を担う科目や、卒業後に社会人として生きていくために必要であると考えられる科目など多様な科目を配置します

・「外国語科目」では、外国語の修得に留まらず、異文化への理解を身に付け、多角的な視野を培うために、科目を配置します。コース毎に履修すべき科目、単位数を定めています。

・「専門科目」では、各分野の専門的な技能および知識・理解ならびに自己表現力を培うために各分野の体系性に基つき、科目を配置します。

・必修科目および選択必修科目において学ぶ内容や段階を的確に示すとともに、学生が主体的に学修できるよう、多様な選択科目を配置します。

・入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践するために、2年間をととした学修の基礎となる初年次教育として、学科共通の必修科目「基礎ゼミ」を配置します。

・「専門科目」、「教養科目」の中から、卒業後の進路や将来の目標を考える指針となる科目を「キャリア科目」として配置します。

<教育の方法>

本学科の教育課程における科目・科目区分の各授業科目は、以下の方針のもと、教育効果を高めるための適切な教育方法により実施します。

・教育内容に応じ、講義、演習、実習、実技を適切に組み合わせた授業を実施し、多様な学びの促進を図ります。

・適切な履修年次を明示し、学びの順次性を重視した教育を実施します。

・演習、実習、実技科目では、少人数制教育を重視し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入します。

・一部の授業を「メディア授業科目」と設定し、ICTの活用を効果的に導入します。

<学修成果の評価方法>

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行います。

また、各学生の授業科目の履修状況、単位修得状況等を定期的に確認します。

■ 短期大学士(芸術)Associate's Degree of Arts:音楽科 バレエコース

本課程における学修をととして、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下のとおり設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成します。

<教育課程の編成・内容>

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の修得をめざし、教育課程を「教養科目」、「外国語科目」、「専門科目」の3つの科目区分により体系的な教育課程を編成します。

- ・「教養科目」では、芸術文化を支える幅広い知識を身に付けるとともに、教養教育を通じてコミュニケーション能力や実践力を備えた豊かな人間性を培うために、専攻分野の学修において学問的な基礎を担う科目や、卒業後に社会人として生きていくために必要であると考えられる科目など多様な科目を配置します

- ・「外国語科目」では、外国語の修得に留まらず、異文化への理解を身に付け、多角的な視野を培うために、科目を配置します。コース毎に履修すべき科目、単位数を定めています。

- ・「専門科目」では、各分野の専門的な技能および知識・理解ならびに自己表現力を培うためにバレエの分野の体系性にに基づき、科目を配置します。

- ・必修科目および選択必修科目において学ぶ内容や段階を的確に示すとともに、学生が主体的に学修できるよう、多様な選択科目を配置します。

- ・入学者が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践するために、2年間をととした学修の基礎となる初年次教育として、学科共通の必修科目「基礎ゼミ」を配置します。

- ・「専門科目」、「教養科目」の中から、卒業後の進路や将来の目標を考える指針となる科目を「キャリア科目」として配置します。

<教育の方法>

本学科の教育課程における科目・科目区分の各授業科目は、以下の方針のもと、教育効果を高めるための適切な教育方法により実施します。

- ・教育内容に応じ、講義、演習、実習、実技を適切に組み合わせた授業を実施し、多様な学びの促進を図ります。

- ・適切な履修年次を明示し、学びの順次性を重視した教育を実施します。

- ・演習、実習、実技科目では、少人数制教育を重視し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入します。

- ・一部の授業を「メディア授業科目」と設定し、ICTの活用を効果的に導入します。

<学修成果の評価方法>

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行います。

また、各学生の授業科目の履修状況、単位修得状況等を定期的に確認します。